

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホームはなは		
所在地	青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町村受理日	平成30年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心が癒やされ安らぎのある家庭的な家(はなは)」を基本理念として掲げ、平成14年の開設から16年経過し、開設当初からの入居者様は94歳でおられます。代表者の思いである、入居者様を敬い、尊敬し、毎日安心して暮らせるということを職員が一丸となって取り組み、入居者様の生活の質の向上や笑顔が絶えず、ご家族が安心して任せられる家となるよう、日々努力しています。地域の皆様に支えられ、今まで穏やかに過ごすことができました。また、地域の方々には関連事業所の事業への作品の貸し出しやボランティア等で協力していただき、現在の「はなは」を確立させることができました。これからも慢心することなく、今まで助けていただいた方々に還元できるホームとなるよう、努力して参ります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成30年9月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの基本理念、方針である「心が癒され安らぎのある家庭的な家」「地域社会と交流を深め、地域に貢献し愛される家」を実現させるため、前年度の振り返りの際には、理念に立ち戻り、年度初めに職員個々の目標を設定し、全職員が意思統一した方向性を持ち、取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事は古来の伝統芸能や四季を感じる多彩なものとなっており、参加・交流することが習慣となっている。山菜や野菜の差し入れ時は入居者様と談笑したり、関連施設での作品展や老人の集いでは案内書を全戸に配布、掲示してくれる等、積極的に協力してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の認知症の相談事業所となったり、母体病院と共に、医療や介護面での困り事や知りたい事の窓口となり、いつでも相談できることを機会がある度に伝えている。また、いきいき介護ボランティアの受け入れはいつでも可能であり、関わっていくことで認知症への理解が深まるように努めているほか、介護職員初任者研修の実習の場としても提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や老人クラブ会長、保健協力員、ご家族、本年度から地域包括センター職員が運営推進会議に出席し、認知症だけでなく高齢者に関することを各方面から広く情報提供していただいたり、情報交換をすることで内容も一層充実・活発化している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席することにより、連携が密となり、キャラバンメイトの派遣もしている。また、市担当者の方々とは各種相談がある時やその都度、連絡を取り、指導いただく等、適正なホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて委員会を発足し、3ヶ月毎に現状把握や改善に関する報告、検討会を行っている。職員の再確認のために勉強会を実施し、年度初めの現任研修でも、身体拘束に繋がらないように安全の配慮や不適切な部分、改善策を話し合っており、ケアの工夫をしながら、入居者様が安心して暮らせるように職員は意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が身体拘束と併せて、高齢者虐待防止についても内部研修を行い、知識の確認や日々のケアを振り返り、不適切な関わりがないか、入居者様が日々、不快な思いをしていないか、職員それぞれが意識を高く持ち、話し合いを重ねている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がおり、職員に周知している。また、成年後見制度を利用している方もいた。職員は年度始めの現任研修で振り返りを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学から相談に応じ、入居契約時には必ず管理者が契約についての説明を行い、不安や疑問等を解消し、理解・納得していただくように誠実に対応しながら、同意を得ている。また、入居後であっても不明な点については、安心していただくまで説明することを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望・苦情箱を玄関に設置しているが、日頃からご家族へは話しやすい雰囲気を作り、誠実な対応を行い、わだかまりが生じないようにしている。また、入居者様とは毎日の生活で、その方の意思を汲み取れるようにコミュニケーションを図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回実施する、スーパーバイザーを迎えての全職員が参加の内部研修では、職員が気兼ねなく、率直な意見を出せたり、相談できる場ともなっており、出された意見や提案は調整し、結果を導き、ケアに反映させている。また、代表者がほぼ毎朝訪れ、職員の言葉を吸い上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員がやりがいと向上心を持って働くことができ、家庭との両立が叶うよう、休みの希望はほぼ受入れ、3ユニット間で協力し合っており取り組んでいる。また、昇給や給与面の処遇、健康診断、インフルエンザ予防接種等、職員が働きやすい環境づくりに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は日勤勤務での参加とし、スキルアップのために積極的に参加を勧めている。内部研修は月1回、全職員が参加し、各館持ち回りで担当者を決め、研修内容や資料づくり、発表を行うことで向上心を高め、自信に繋がっている。また、母体医療機関で開催している介護職員初任者研修での資格取得や勉強会に参加する等の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して資料をいただくほか、研修会で交流を図っている。また、他のグループホームとの交流があり、お互いに入居者が楽しめるよう行事を企画し、職員の質の向上に繋がっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった時は、事前情報のほか、入居者様やご家族様、各関係機関と関わりを深め、相談者の立場となり、できる限り傾聴している。また、不安な事や意見、要望を引き出し、信頼関係を築き、安心して生活できる場であることを理解していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の有無に関わらず、認知症の方を介護して来たご家族の苦労に尊敬の態度を示し、できるだけ時間を取って話を聞き、今後の希望と一緒に支援して行くことを説明しながら、誠意を持って対応している。また、入居後も気兼ねなく、話しやすいホーム、職員であるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今、現在」の入居者様の状態や意向を正しく理解し、具体的な生活支援の在り方や方向性を決め、適切なサービスに繋がるように担当ケアマネージャーや各機関、主治医、ご家族と共に相談しながら利用できるように柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の場であることを意識し、できる事や分かる事を大切に、日々の暮らしに活かすことで、職員は「暮らしのパートナー」として共に関わり、暮らしの知恵や物事の捉え方等、入居者様からの学びや新たな発見となり、相互に支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は小さなエピソードや細やかな表情変化、できるようになった事、記憶に残っていた事等の喜ばしい事を優先して報告し、安心していただいている。また、遠方のご家族へは手紙や写真を送ったり、電話で状況を説明し、共に考え、相談し合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚等の面会時は、気兼ねなくゆっくり話ができるように場所の確保や失礼のないように配慮し、差し入れていただいた物は一緒に味わったり、楽しんでいただけるようにしている。また、ご家族の協力でお盆の外出の際は、墓参りや行きつけの美容院へ行く方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの特性や性格、関係性を把握し、入居者様一人ひとりが互いを許容し、認め合い、共に支えながら、生活できるように職員が配慮し、仲介や代弁をすることで、雰囲気や関係を整えている。また、入居者様の希望の過ごし方でも、声かけ等を行い、一人よがりにならないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もいつまでも相談できることを伝え、環境変化に混乱が生じないように情報提供を行い、安心して新しい生活に移行できるように、サービス利用中は関係性の構築を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との関わりの中で、入居者様の言葉や表情、行動から思いや意向を把握できるよう、職員で情報を共有し、理解に努めている。また、入居者様の気持ちを推測し、入居者様の立場に立って考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居者様やご家族、関係機関から情報を収集し、生活習慣や趣味、嗜好品等を聞き取り、アセスメントを行い、その方に合った支援ができるように職員で情報を共有している。また、入居者様とコミュニケーションを図り、長年の生活スタイルを把握するようにも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの場で「できる事、分かる事」に着目し、気づきを大切に、入居者様個々の力の発揮に向けた支援を行っている。また、活動時の様子や1日を通しての気分の変化、BPSDに対して実施した職員のケアも具体的に記録し、毎日の申し送り等でも職員は情報を共有しながら、入居者様の総合的なケアへ繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一連のプロセスを経て、日々の気づきや入居者様の希望、ご家族の要望、思いを伺い、その時々課題を検討している。また、立場の違った意見を見逃さず、最良のケアを提供できるよう、情報の共有を行っており、入居者様主体の介護計画を作成し、支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の表情や言動、気分の変化等は、朝・夕の申し送りや詳細に記録することで、職員は情報の共有を密にしている。また、入居者様の暮らしの様子を踏まえて、介護計画書に反映させ、ご家族に分かりやすく説明できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や臨時受診等は、必要に応じてご家族に相談しながら柔軟に対応しているほか、入院時の洗濯物やオムツの補充は、ホームで対応している。また、重度化により外出頻度は多くないが、関連施設や託児所の園児との交流もあり、人間関係が広がり、豊かになったり、楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内会長や民生委員、保健協力員の方々が参加し、災害時には相互に協力し合い、消防団の方々からも入居者様一人ひとりを要護していただける体制となっている。また、以前行われた認知症徘徊高齢者模擬訓練も振り返り、共に認知症の方を見守り、支えることの確認もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者は母体病院の主治医であり、入居者様の心身状態を把握し、訪問する時には、入居者様個々の状態に合わせた言葉がけや接し方で優しく労っており、精神的安定に繋がっている。また、職員も不安要素がある時は相談やアドバイスをいただいたり、受診に繋げている。受診後、ご家族へ報告することで情報の共有を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面や精神面で変化がある場合は、相談して、指示を仰ぎ、記録で情報を共有している。必要時には主治医と連絡を取り、健康への不安解消に努め、入居者様に適切な方法で対応できている。また、訪問看護ステーションと契約しており、看取りへの対応ができる体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は以前の生活や状況について、詳細に医療機関へ情報を提供し、混乱が最小限になるように努めている。定期的に面会し、入居者様の心のケアを行い、状況を把握して、ご家族と連絡を取りながら、早期退院へ向けて支援しているほか、退院時には医療機関から情報や観察ポイント等を聞きながら、退院後の生活を円滑に遅れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして「看取りに関する指針」を基にできる事やできない事を説明している。入居者様一人ひとりの状態は異なるため、その場面で納得しても、その時になると不安を示されるご家族もいるので、再度、十分に時間を取って話し合いを行い、気持ちに寄り添い、その上で安心して最期を迎えられるように配慮し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、救急搬送マニュアルを整備しており、定期的に看護師や管理者による、対処法や手順等を振り返り、習得している。また、必要時には各ユニットから協力してもらい、情報を共有し、連携を図ることもできる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した総合訓練を年2回、実施しているほか、風水害非常災害避難準備発令組織図に沿って、ホーム外の避難場所までの訓練も実施し、体制等を把握している。また、対応マニュアルには主治医や各連絡機関、消防団の連絡先を掲載した組織体制図を掲示している。災害時に備えて、備蓄品は消費期限を確認し、補充している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	知覚、感情言語による包括的コミュニケーションに基づいたケアやユマニチュード手法を常に心がけ、振り返りのための勉強会も開催し、職員は入居者様一人ひとりを大切に、尊厳やプライバシーに配慮し、暮らしの様々な場面で留意、工夫を図っており、職員が優位な立場にならないように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意向が最優先されるように、場合により筆談やジェスチャー交えて希望を聞き取り、選択肢を簡潔に分かりやすく伝え、思いや希望に沿うように働きかけている。また、自己決定が困難な方に関しては表情の変化や身体の動き等で判断し、一方的な提供とならないよう、機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々入居者様の希望や心身状態に合わせ、スケジュールに盛り込んだり、希望や変化にも寄り添い、あくまでも入居者様が主体の指針で安定、安全で無理な負担とならないよう、柔軟に取り計らう時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身なりに無頓着とならないように、ご家族や入居者様の希望、それまでの好みを把握し、その方に合った服装を選び、天候や行き先にも配慮している。また、行き付けの場所や訪問美容室、近隣理髪店の活用も支援し、入居者様は生き生きと会話している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の力量に合わせ、作業分担を小分けにして、干し柿作りや畑で収穫した野菜で漬け物を作る等、冬支度を楽しんでいる。また、プランターで育てている野菜の苗に水をやり、成長過程を楽しんだり、山菜を囲んで調理方法や味付け等の話題をしながら、職員と和気あいあいと行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の嚥下状態や嗜好等に考慮し、とろみを付けたり、食事形態や量を変えて提供している。また、食事や水分が少ない方へは好む物を提供したり、食事がスムーズに進むように分配や席の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理体制加算導入により、月1回、議題や事前アンケートに基づき、職員は医師や歯科衛生士から入居者様個々の認知症状や高齢者に合わせた口腔ケア、誤嚥性肺炎予防等に関わる知識、技術的助言の指導を受け、日々、口腔衛生管理を行っている。また、集団検診結果により治療や健康管理にも往診してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表に記入して、入居者様個々の排泄パターンを把握し、事前誘導等で失禁の軽減や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、排泄意識の薄い入居者様には行動や言動に注意し、発するサインから事前誘導している。失禁時は、羞恥心やプライバシーに配慮し、他の入居者様に気づかれぬように速やかに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中に乳製品や食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、できるだけ多く摂っていただくように提供している。また、体操や散歩、歩行練習等の適度な運動も取り入れ、薬だけに頼らず、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前には血圧測定や体調観察を行い、シャワー浴に切り替えて体調への負担を軽減している。また、入浴できない方には清拭や下着交換をしたり、入浴したがりない方には入浴日の変更や時間を置いての声かけ、職員の交代等により対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの状態に合わせ、体の傾きや傾眠、同一の姿勢時間を見て居室やソファで休んでいただいている。また、日々の生活の中で疲労具合や体調にも合わせ、時間に拘らず、自由に休息を取っている。その時の気候や気温に合った寝具や機器設備の調整を活用し、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等、全職員が理解して、把握できるように工夫し、何重にもチェックし、記録している。服薬の際には、人名、日付け、飲み方等を声に出して確認し、誤薬を防止している。また、服薬に変更があった時は都度、カードの説明書を変更し、申し送りを行い、服用後の様子も注意して観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事として音楽療法のボランティアが来て、アコーディオンで歌等を一緒に歌ったり、関連施設で行っている認知症カフェや各趣味の講座、協力して製作・出品した作品展の見学、コンサート等の楽しみ事による気分転換の場へは、定期的に参加するように支援している。また、日々の作業や手伝いを安全に行い、他の入居者様と円滑に関係が構築できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物等の機会を作っており、外出の移動距離や手段等にも合わせ、負担軽減や安全にも配慮している。外出があまりできない入居者様には、屋内にこもらないように中庭や畑、近隣の散歩等を取り入れているほか、母体病院の夕涼み会へ参加できない方は、前庭で花火やスイカ割り、踊り等の機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは管理していないが、入居者様の力量に合わせ、希望により少額所持していた方やホーム管理の方も、買い物時の支払いは職員が付き添って行っている。金銭管理はホーム管理で明確な流れとなっており、現在までトラブルは生じていない。また、思いがけない支払いについては事前にご家族から支払うことについて承諾を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや代筆の申し出がある方はいないが、届き物があつた時は一緒に開封し、入居者様の力量を問わず、ハガキで近況報告がてら、返事をするようにしている。また、電話希望や取り継ぎは、職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内や前庭からは四季折々の景色や風情も楽しむ事ができ、生活の一部として季節に合った花や歌、展示物、ひな人形等を飾っている。また、感染防止を重視した環境整備を行い、エアコンや床暖房、カーテン、換気することで、光りや室温を調整し、快適に過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の関係性や状態に合わせ、ソファや食卓テーブルを分けたり、席替え等を行い、入居者様同士の関係が円滑で良好となるよう、入居者様一人ひとりの表情や気分の状態を観察し、心地良く過ごせる場の調整に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や寝具を持参していただき、それ以外でも思い入れのある物や大事にしている物をご家族と相談しながら配置し、気持ちを高めたり、安心感を得られるようにしている。また、中には各行事や各教室、ご家族の写真を自ら飾り、時々、思い出して話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの心身機能を把握し、移動の邪魔にならないよう、物品や植物等は置かず、広く廊下を安全に歩けるようにしている。また、トイレや居室ドアに入居者様が分かりやすいように大きく名前を掲示し、自分の目的に向かえるように配慮している。		